



広 袴 町 内 会 号  
会 報 新 年 号

発行日  
平成 20 年 1 月 1 日

発行責任者  
広 袴 町 内 会 号  
上 杉 孝 三 郎



## 新年のご挨拶 会長 上杉 孝三郎

広 袴町内会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

旧年中は町内会活動に対し、会員各位から多大なるご支援、ご協力、ご助言等を頂きました。

お蔭様で、新役員一同無事に新年を迎えることができましたことを、深く感謝申し上げます。唯一不幸なことは四月十九日町内七組の集合住宅において、いたいけな児童四名が焼死するという火災が発生したことでした。防火訓練等を通じた、日常の防災意識の啓蒙活動が大切であることを再認識するとともに、集合住宅にお住まいの方々や、新たに転入してこられた方々に対して町内会活動のPRを行うなどして、入会を勧める等、



正副会長を含め役員全員新しい人達で、昨年の四月からスタートした町内会の運営でしたので、前役員から業務の引継ぎを受けたとはいえ、暫くの間は試行錯誤の繰り返しで、相談役の吉川前会長には、大変忙しい思いをお掛けしてしまいました。

また、会館の管理運営に関しましては、経験豊かな前任の小林・森本両氏に副委員長をお引き受け頂き、大変助かりました。

町内会活動の継続した事業として、情報誌「広袴便り」の定期発行、町内クリーンアップ活動、関係諸団体のご協力の元に行われた防災訓練、街路灯やカーブミラーの点検や増設等の安全性向上活動、納涼盆踊り大会、秋祭り、どんど焼きなどの伝統行事、市民運動会（雨天中止）、歳末特別警戒等に加え、新たな取り組みとして、近隣町内会と連携し皆様にもご協力頂きました。鶴川―真光寺線バス運行改善活動（年初から最終便2便増予定）、文化の日（十一月三日）と四日両日、フレッシュタウンの皆様を含む町内会会員の素晴らしい作品を一堂に集めた作品展示会の開催等がありました（来年以降も定期行事として開催する予定）。

いつそうの町内会の連帯強化を図る必要があると痛感いたしました。

町内会を支える活動としては、小学校の学区を中心とした町田市青少年健全育成鶴川第二、第三両地区の年間を通じた委員会活動、消防団第七部の夏季二ヶ月間にわたる朝四時から六時までの消火技術向上訓練や、真光寺駐在所や交通安全協会のご協力を頂きながら防災訓練や、盆踊り大会等のスムーズな運営を陰で支える警戒活動等が特筆されます。

また、盆踊り、秋祭り、どんど焼き等の伝統行事で活躍し、盛り上げてくださる子ども会の活動も見逃せません。

・今年、市公園課のご協力を頂き、広袴公園に会場を移して行われる「どんど焼き」から新年の行事がスタートいたしますが、近隣住民の皆様への配慮、使用後の後始末等をきちんとやることで、来年度以降も公園の使用が継続できますよう、会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

・また従来、鶴川第三小学校と真光寺中学校に分散していた広袴地区住民の選挙投票所を、本年4月以降を目処に、新しい投票所を広袴会館に開設することが決定いたしました。この変更



に関しては、市の広報誌や回覧等をご覧ください。投票実施日には、運営要員として若干名の参加協力を要請されていますので、指名された方は、宜しくご協力の程をお願いいたします。

・昨年は、町田市を全国的に有名にする事件がいくつか発生しましたが、ここ広袴地区は、幸いにも、他地域と比べて事件・事故ともに少ないところであるといえます。しかしながら、空き巣やひったくり等外部の犯罪者に狙われやすい行政境に近いところに位置しておりますので、今年も地域全体の皆様と力を合わせ、「安全安心な街づくり」の推進に努めて行きたいと考えております。その為には、日頃から近所同士のコミュニケーションを一層深めていただき、タバコの吸殻や犬のフン等のない清潔な町並みを維持し、就寝時は周囲を明るく家中を暗くし（泥棒が敬遠したい家―警察データ）、見慣れない人たちにに対し気軽に声を掛けるようにする等がその基本であると思われまます。皆様のご協力をお願いいたします。

・昨年は移動型のワイヤレス音響機材、会館内ビクチャーレール機材等を購入させていただきましたが、今年には、将来の高齢化に対応する目的で、組み立て式の盆踊り用やぐらの購入の検討を考えております。

・今後の町会の運営に関して、考えていることを、次の4点に絞って述べてさせていただきます。

①業務の継続性を計るため全委員が同時に交代する現行のルールから、各組を代表する委員の任期2年はそのまま、毎年半数の委員が交代、残りの委員が継続業務できるように委員選出時期を1年ずらす考え方を検討する。

②月2回（第1週、第2週土曜日）開催される町内会役

員会と会館運営委員会は、メンバーが同じであり、時間対効果を高めるため、お二方の会館運営副委員長を町内会の顧問として町内会運営に参画して頂くことを検討する。

③パートナーであるフレッシュタウン鶴川自治会との連携を一層強化する。

④近隣町内会（真光寺町内会、真光寺3丁目町内会等）と交流を図り、共通する情報、問題への対応を推進する。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げますとともに本年も一層のご支援を賜りますようお願いをいたしまして新年のご挨拶と致します。

## ドンドド焼きの由来

ドンドド焼きというのは、サイの神の火祭りのことで、小正月の行事であり一月十四日の夕方行われます。サイ

の神の語源は「サエの神」即ち寒えの神のことで、また道祖神と呼ばれる民間信仰の神です。村境いの峠や辻に祀られて、外部からの災厄や病魔の進入を「さえぎる神」です。サイの神が方言的に訛ってセーノカミと呼ばれます。

火を焚くのは、その火の勢いで悪疫を追い払うという縁起のものです。またこの火で道祖神の石を焼いて、道祖神の活躍をうながします。

七草過ぎに、子供達が集団で村の家々を廻ります。「セーノカミ呉んな」、「セーノカミの餅呉んな」などと叫びながら、各家から正月飾りや古い神札などを回収し、餅や菓子を買ひやお賽銭として小銭の包みを買って歩きます。

道祖神の辻にセーノカミの小屋をつくりました。五米位の長い竹を芯竹にして、三方から側（わき）竹で支えます。芯竹の下に道祖神の石を置きます。それを藪竹や藁やお飾りの松などで周囲を葺いて、三角錐の小屋をつくりあげます。長い芯竹には古いお札やダルマを吊して飾り立てます。

十三日の夜、子供達はこのセーノカミの小屋の中で、円座を組みお餅を食べ、語り合い唄いあつて楽しみました。十四日の夕方、いよいよ火祭りが始められます。火がドンドン勢いよく燃え上がれと気合をいれるので、ドンドド焼きとかドンドン焼きとか呼ばれるようになりました。

家で作った団子を檜の枝の三つ手になったところに刺し、火にかざして焼きます。焼いた団子を人と交換して食べます。この団子を食べると風邪をひかないとか、よい成長をとげることができるとされました。それでドンドド焼きの行事をダンゴ焼きという地方もあります。

また正月の書初めを火中に投げ、その焼灰が高く舞い上がるほど習字が上手になる、勉強ができるようになることができました。

もう一度云いますと、ドンドド焼きは道祖神の火祭りであり、道祖神の石を焼くことによって子供のより良い成長を望む大人たちの後援が後ろにありながら、表面はあくまで行事は子供中心に進められる、小正月の子供の祭りなのです。（編集部）

広報部長 金子欣三  
副部長 井上好信  
編集人 佐々木幸子

今井昭哉  
松川泰重  
佐藤裕幸  
大矢喜昭

安藤由希代  
長谷美紀  
谷口正  
土屋知子  
吉川和秀